

# 岩本ゼミナール機関誌

第10号

2005年度版

京都大学経済学部

岩本武和研究室

# 岩本ゼミナール機関誌

第 10 号

2005 年度版

京都大学経済学部

岩本武和研究室

# 岩本ゼミ機関誌第10号 (2005年度版)

## 目次

I. まえがき	岩本武和教授	1
II. 寄稿論文		
資本移動の理論と現実	岩本武和教授	3
貨幣的景気循環モデルの日本経済への 適用可能性についての分析	9期生 荒戸寛樹	18
III. ゼミ単位取得論文		
「中小企業」とは何か	11期生 上田翔一	56
日中 FTA 構築の可能性	11期生 片山洋樹	67
震災後の阪急西宮北口駅周辺地区の再開発について	11期生 松本耕一	73
中国の不動産市場に関する一考察	11期生 吉田和正	80
アジア通貨・金融危機と原罪の関係についての一考察	11期生 吉田晋也	94
IV. ゼミ年間活動報告およびインゼミ立論・提出論文		
2005年度ゼミ活動報告	12期生 大隈拓也	119
高崎経済大学とのディベート立論	12・13期生	122
論文発表会 WEST 提出論文	12・13期生	126
論文発表会 ISFJ 提出論文	12・13期生	146
V. 先輩からのメッセージ		161
VI. 2004年度ゼミ決算報告	12期生 長屋真季子	163
VII. 編集後記	11期生 吉田晋也	165

## Ⅱ. 寄稿論文

- 資本移動の理論と現実 3  
岩本 武和  
京都大学大学院経済学研究科
- 貨幣的景気循環モデルの日本経済への適用可能性についての分析 18  
荒戸 寛樹  
京都大学大学院経済学研究科修士課程  
岩本ゼミティーチングアシスタント

### Ⅲ. ゼミ単位取得論文

「中小企業」とは何か 上田 翔一	56
日中 FTA 構築の可能性 片山 洋樹	67
震災後の阪急西宮北口駅周辺地区の再開発について 松本 耕一	73
中国の不動産市場に関する一考察 吉田 和正	80
アジア通貨・金融危機と原罪の関係についての一考察 吉田 晋也	94

#### IV. ゼミ年間活動報告およびインゼミ立論・提出論文

2005 年度ゼミ活動報告 119  
大隈拓也

高崎経済大学とのディベート立論 122

論文発表大会 WEST 提出論文 126

論文発表大会 ISFJ 提出論文 146

## OB・OGの方へ

### ◎ 寄付金のお願い

2005 年度も多くの方からの寄付金を頂きました。ありがとうございました。おかげさまで今年度も充実したゼミ活動となり、無事に機関誌を発行できることとなりました。ここに現役ゼミ生を代表して、お礼申し上げます。

2006 年度も改めて寄付金を頂戴できれば幸いです。一人一口 7000 円にての御寄付をお願い致します。

みずほ銀行 百万遍支店 普通預金

口座番号 476-2003967

京都大学経済学部岩本ゼミナール 岩本武和 宛て

### ◎ 青竹会について

一年延期されていた青竹会でしたが、2005 年度は 9 月の 17 日に京大会館にて多数の先輩方のご参加を頂き盛大に行うことができました。岩本ゼミの縦と横のつながりをより一層強くする場として非常に素晴らしいものであったと思います。

次回の青竹会は 2007 年の夏に開かれる予定ですので、その際には是非ご参加いただければと思います。

### ◎ ホームページについて

ご存知の方も多いことかと思いますが、岩本ゼミナールのホームページがあります。現在のゼミの様子が写真なども交えて紹介されております。また青竹会等の連絡事項等を掲載したりすることもありますので、時々チェックのほどよろしくお願いします。

岩本ゼミナール H.P. (<http://www.geocities.co.jp/CollegeLife/Library/3251/>)

### ◎ 名簿について

ゼミ名簿に関してですが、住所・電話番号・勤務先等に関して変更点があれば出来る限り更新をするようにしております。現在の名簿の内容に変更がある場合、また今後変更点が生じた場合には、次年度編集委員の 12 期生大隈 ([teddyasufuru@hotmail.com](mailto:teddyasufuru@hotmail.com)) までご連絡ください。

## VII. 編集後記

2月の下旬から僕のもとには原稿が続々と寄せられ、その総ページ数は230ページ程になりました。基本の編集を施し200程になったものの、そのページ数では印刷費が岩本ゼミ会計を破産させるために、更なる整理・圧縮を行い無事現在の形での発行がかないました。機関誌に収まらぬ量のゼミ活動の成果、このことから今年度も岩本ゼミは健在であることが分かっていただけるのではないのでしょうか。2005年度で卒業する4回生が執筆したゼミ論は国際経済に限らず幅広いテーマが取り上げられています。そのテーマ選択と論文構成には、興味や今後の進路といったことも関わっていてそれぞれの色がよく出ています。3回生、2回生は後期にはディベート班、WEST班、ISFJ班の3班に別れて活動を行いました。機関誌にはその成果としての立論・論文が載せられました。人民元の切上げ、日中貿易と産業政策、世界的資金循環の現状等、現在ホットな問題が理論、統計を交えて分析されています。三班体制による時間的・人力的制約を克服して練り上げられた文章は読み応えがあります。先生やTAの荒戸さんからは貴重な論文の寄稿をいただきました。

僕達4回生が、2回生の初めての若狭高浜での春合宿で量的金融緩和政策の是非について議論してから3年が経ちました。奇しくも先日金融緩和政策の解除が発表されましたが、ただただ月日の早さを感じます。振り返るとこの3年間で岩本ゼミから得たものは計り知れず、ゼミでの経験は僕の大学生活の誇りとなっています。岩本先生がかつて「勉強には教科書的に下から積み上げるものと、難しい現実の問題について上から取り組み必要に応じて基礎に立ち返るものがある」と話されたことがありますが、岩本ゼミの中では理論と現実の両面をバランスよく考える力が養われました。またインゼミの活動の中では人と協力して何かを作り上げる力が、そして何よりも岩本ゼミを通じて様々なことを語り合える仲間を得ることができたことは何事にも替え難いと思っています。頼りないゼミ長だった僕なので、同級生のみんなには様々な面から助けてもらいました。上田君には青竹会幹事や機関誌編集における堅実な仕事で、片山君には緻密な会計管理やゼミ後の溜まり場の提供という面から、柴さんにはみんなが楽しい宴会・合宿の企画や語学力の面から、西村君にはサブゼミの理論面での先生役と合宿時等の車両提供の面から、松本君には圧倒的の笑いと言論の整理といった面から、和正君には多角的・鋭角的意見の供給という面から、翔君には確実な先行研究リサーチと文章の構成といった面からそれぞれ力を発揮してもらいました。春からはそれぞれの道を行くこととなりますが、これからもときどきは顔を会わせてお互い刺激しあっていきましょう。

岩本先生はただ答えを与えるのではなく、ゼミ生が自ら答えにたどり着くようなヒントを与えながらゼミ生の成長を見守って下さいました。また先輩方も同じ姿勢でいつもゼミ生をサポートして下さいました。柴田さん、河村さん、杉さん、荒戸さん、松岡さんを初めとする先輩方には徹夜でお付き合いいただいたこともあり、本当にお世話になりました。上の方が下の人に親切に指導をして成長を促す雰囲気は岩本ゼミの素晴らしい伝統です。後輩の皆さんも是非仲間とともにこの岩本ゼミで更に輝いてほしいと思います。

改めて同期を代表しまして、岩本先生この3年間本当にありがとうございました。次回の青竹会で先輩方、そしてゼミ生のみんなと共に先生を囲んでお話することを楽しみにしています。

2006年3月12日 吉田 晋也



岩本ゼミナール機関誌 第10号  
2005年度版

2006年3月24日発行  
京都大学経済学部  
岩本武和研究室

禁無断転載